

第5回海陽町学校のあり方検討委員会
議事録

日 時：令和4年10月28日（金） 10:00～11:45

場 所：海南文化館 大会議室

出席者：委員16名中11名出席（別紙名簿参照）

事務局：（担当課）海陽町教育委員会 三浦教育長、森崎教育次長、浦川主査
（受託者）リージョナルデザイン株式会社 安孫子、佐々木

■議事1 アンケート調査の結果報告

（登井委員長）

アンケート調査結果報告について、事務局から説明をお願いします。

事務局・森崎教育次長、安孫子から説明

（登井委員長）

ただいまの事務局の説明について、ご質問はありませんか。

（谷本委員）

40代以下は保護者と呼ばれていましたが、高校生の意見も40代以下に入っているということでしょうか。

（事務局・安孫子）

10代の意見は0.8%と非常に少ないですが、入っています。

（登井委員長）

これがわかりませんということでも結構です。なかなか発言するのは大変だと思いますが、意見や感想などを言っていただけるとありがたいです。

（辻委員）

40代以下は保護者ということですが、保護者でも50代以上の方もいらっしゃると思いますが。

（事務局・安孫子）

抽出をしたときに、ほぼ全員が40代以下でした。最初にアンケートを送付する段階で、40代が一番高い年代であることがわかっていました。

(角田委員)

有効回収率は予定していた通りですか。

(事務局・森崎教育次長)

予定していた通りではありませんが、若干低めかなと感じています。有効回答数につきましては、以前も確認しました通り、アンケートとしてこのデータを使うことについては問題がないと事務局として考えています。

(登井委員長)

角田委員はどのように感じましたか。

(角田委員)

少ないなど。2人に1人は出していないということですよ。

(三浦委員)

町民であれば、学校のことはわからないからといって出さないのはわかりますが、保護者が少な過ぎるのかなど。自分たちの問題なのに、こんな回答率かと思いました。

(皆津委員)

私も一緒です。

(登井委員長)

もう少し保護者の回答率が高くなっていいのではないかと感じになったということですね。

(事務局・森崎教育次長)

兄弟や同じ家庭に被らないようにということで、あらかじめ被るようなことはしないようにして、アンケートをお送りしました。

(登井委員長)

他の委員から保護者の回答が低いのではないかと意見が出ていますが、福田委員や村田委員はどのようにお感じになりましたか。

(福田委員)

保護者に対しては、下の学年のお子さんのもので答えてくださいとお願いしていて、強制はしていません。アンケートは普通、学校でしたら上の学年で回答してもらうのがいつもの

スタイルです。その辺りに回収率の問題があるのではないのかなと思います。あと気になったのが、漢字に関してですが、「配布」というのはその他大勢に配る場合は「布」という字を使用しますが、特定の人に配る場合は「付」という字にした方がいいと思います。ですので、この漢字は訂正していただければと思います。

(事務局・安孫子)

学校は正解で、保護者の方は無作為なので「布」になると思います。調べます。

(村田委員)

居住地区の割合ですが、海南小学校区が 58.7%、海部小学校区 16.5%、穴喰小学校区 23.7%となっていますが、大体人口比とか保護者の数などと準じた形になっているのでしょうか。ざっくりと海南小学校区は多いだろうなと思っていましたが。例えば、穴喰小学校区はとても回答率が高かったとか、そのようなことはないのでしょうか。

(事務局・森崎教育次長)

比率的にいきますと、大体そんなに大きな差はないのかなと考えています。人口比でいきますと、町の人口でいくと半分が海南、穴喰の半分が海部ということですので、全体的にはこのような感じかなと思います。どこかが突出して高いということはないと思います。

(登井委員長)

他にございませんか。いろいろな意見や感想などをおっしゃっていただけましたらと思います。

(皆津委員)

感想でもいいですか。本当は今のままが一番ということをお皆さん希望していますが、将来のことを考えて、致し方なく2校体制になっていくのかなと思っているように見受けます。私もその思います。具体的にいうと、海南と海部が一緒になって、穴喰とで2校体制ということでしょうか。先の話ですが、海南と海部が一緒になった場合、特に文化的に素晴らしい海部が埋没してしまわないように、地域学習等を通して、自分が生まれ育った地域や学校を誇りに思ったり、愛する気持ちをもってほしいなと強く感じました。

(谷本委員)

自由記述の意見を見ると、海部小学校区の意見は50代や60代の方ばかりで6件ということなので、40代以下の保護者の意見が入っているのかなと少し不安です。私も小学生の保護者としてアンケートには答えましたが、家族で話をしても、アンケートに答えるのが難しいというか、そういうふうにした家庭がたくさんあるのかなと思います。お父さんに答

えてもらうのに、話し合ったりもしましたが、そのように感じました。質問が難しく感じたようです。

(登井委員長)

アンケートの質問が難しくなかなか答えにくかったという意見でした。皆津委員からは、現状でいいけれど、2校・2校になっていくのかなという意見が、このアンケート結果から読み取れる部分がたくさんあったというお話でした。具体的に、小学校や中学校の再編・統合についてというデータが出ていますので、これについて率直な意見を言っていただければ本当にありがたいなと思います。

(登井委員長)

皆さん言にくいようですので、私が発言してもよろしいでしょうか。私は、どれが一番いいのかというのは、本当にわからないと思います。ですが、やはりデータを見て、今まで資料でみてきた人数などを考えると、もう少し今のままでいってみてはどうかと思います。やはり今、一番読みにくい時期じゃないのかなと私は感じました。毎日楽しみに新聞のお誕生欄を見ていますが、本当に生まれてくる子どもは少ないですね。3年ぐらい先、どれくらいの子どもの生まれるかはわかりませんよね。ただ、その辺りのデータがあれば、もしかしたら、今後の人数が読めるのかなと思います。もう少しデータを見てみたいなのというのが、私の個人的な感想です。ですが、教育委員会にある程度このようにしたらどうですかという意見を出していくには、皆さんが出してくださった2校・2校という意見に向いていくのも仕方がないかなとも感じています。しかし、せっかく今非常に良い教育環境をつくってくださってやっていますので、もうしばらく現状維持でどうなのかなというのが、私個人の意見です。

(三浦委員)

私も賛成です。現状で都合が悪いということはないので、可能であれば今のままでいってほしいです。

(伊丹委員)

以前、宍喰の子どもたちについて意見交換する場があったのですが、宍喰の子どもたちは海南の子どもたちと比べると、ちょっと劣っているところがあるのではないのかという意見をもっている方がいました。しかし、人数は確かに少ないですが、学年ごとにまとまりがあったり、生徒がたくさんいる学校と比べて劣っているところもそんなにないと思います。児童生徒の人数も、急に減るわけではないので、このまま宍喰は宍喰でいってもいいのではないかなと思います。

(登井委員長)

穴喰小学校の子どもたちは、人数は少ないけれども非常にまとまっていたり、いろいろな教育活動もできているので、今のままでいいのかなという意見です。反対の意見もどんどん言ってくださいね。何も遠慮することはありませんし、中学校に関する意見を言っていたいただいても結構です。

(福田委員)

伊丹委員が言われた会に私もいましたが、いま子どもたちはみんな1人1台タブレットを持っています。今まで使っていた机の大きさが、タブレットを置くと狭くなるので、少し大きめの机を小学生は使っています。それで、中学生もそのような机を使ってはどうかという話もありましたが、穴喰の規模であれば、15人ぐらいでしたら大きめの机を教室に入れて授業が可能です。それが、例えば30人のクラスになってくると、いっばいで身動きがとれなくなります。これがタブレットを使った弊害と考えられます。今の穴喰の現状であれば15人規模で、中学校も来年はすべて15人の予定ということで、ちょうどいい感じでタブレットを使っての学習も可能です。横でビオトープなど外の活動をするなど、15人規模であればフットワーク軽いので、いろんな教育活動ができていて、そこに地域の方も入ってきていただいています。これが統合されてしまうと、この辺りのフットワークが少し重くなります。それから教室のエリアも少し狭くなります。その辺りを改善しておかなければ厳しいかなという考えがあります。例えば、従来人数がいる海陽中学校であれば、その狭い机を使いながら、いろいろ工夫しながら多分やっておられるのかなと思います。箱をそのまま使うのであれば、そういうことも含めて統合問題を考えていかなければいけないと思います。もちろん新しいものができるのであれば、新しいところで改善すべきですし、その辺りをこれからは考え方にに入れておくべきではないかと感じています。

(登井委員長)

児童生徒の人数だけでなく、タブレットが入ってきたことによって机の大きさとか、昔に比べて教科書も大きくなっているとか、そのようなことを考えると、1学級の適正人数をどうしていくのかということも福田委員から投げかけてくれました。

(辻委員)

1学年で2学級以上という問いに対して、海南と海部が「ややそう思う」、穴喰で「そう思わない」といろいろありますが、私は戦後生まれでクラスが1学年で7つや8つあった学校にいましたので、なかなか同じクラスにならない子もいましたが、それでも毎年クラス替えがあると楽しみでした。今度はあの子と一緒にになりたいなといった希望など、いろいろ楽しみがありました。今の子は1クラスで、ずっと6年間通って同じ子ばかりですので和気あいあいとできると思います。ただ、それがいいのかどうかわかりませんが、私自身はで

できればクラス替えができるような学校にできたらいいなと思います。今はこのままでいいと思いますが、後々将来的には2校・2校になって、人数が増えて各学年がクラス替えできるようになれば、子どもたちも楽しいのではないかなと思います。私はできれば、今年や来年はクラス替えができるような学校編成ができなくても、3年後やそれぐらいにはできたらいいなと思っています。

(登井委員長)

辻委員から、できれば人数が多い方がドキドキ・ワクワク感というものがあるって、非常にいいのではないかという話がありました。少し現実を考えてみますと、1学年2学級を目指すには、1校1校にしなければ厳しいのではないのでしょうか。

(三浦教育長)

例えば、来年度から海南と海部を統合しても2クラスになりません。ただ、3校が一緒になると、しばらくはクラス替えができます。中学校は、今一緒になると、当面の間は2クラスでいけます。小学校は2校体制でも厳しい状況です。穴喰と海南が一緒になればクラス替えができる学年もありますが、3校でないと厳しいです。

(登井委員長)

辻委員から、いい意見を言っていただきましたが、子どもたちのこれからの人数を考えた場合は非常に厳しいと言わざるを得ないということがわかりました。

(伊丹委員)

辻委員の意見を聞いてですが、私の子どもも来年高校へ行きますが、今まで小学校6年間、中学校3年間と、ほとんど同じクラスメイトと学校生活を一緒にしてきました。ですので、高校へ行くと、海陽中や牟岐中、日和佐中の子どもたちと新たなクラスメイトになるので、今までずっと一緒だった子と離れてしまって仲良くできるのかが心配です。もし昔みたいにクラス替えができる時代でしたら、毎年クラスが替わって、新しい友だちと仲良くなるという出会いがあったと思いますが、今の子どもたちは全くずっとなかったので、高校での新しい環境に適應できるのかなという不安は保護者としてあります。

(登井委員長)

私も海部小に勤務していましたが、海部の子どもたちも中学校へ行くときの不安などあったのではないかなと思います。そのような不安を取り除くような教育環境や仲間づくりをしながら送り出しました。できるだけより良い小学校生活や中学校生活ができるように、この話し合いができればと思っていますので、ぜひ意見を出していただけるとありがたいです。

(福田委員)

海陽中学校になった時、私は担任をしていました。ちょうど合併した時に、中学校 3 年生を担当していました。中学校のレベルになると、全然違和感なく子どもたちはすっと入っていきます。部活の交流もありますし、いろいろなところで子供たちは出会っていますので、心配はないかなと思います。それが高校になると、また守備範囲が広がってきて、今回の海部高校であれば、地域みらい留学といって北海道から熊本までの子どもたちが全国から集まっています。ですので、その子どもたちといろいろなつながり方をしていくのではないかなと思います。保護者は多少不安があるかもしれませんが、子どもたちは割と臨機応変に対応していくのではないかなと思います。

(谷口委員)

私も子どもを送る時にその不安はありましたが、意外と小学校や中学校で生徒会や引っ張ってきた子でない子どもにもスポットが当たることもあります。今までおとなしくクラスでいた子にスポットライトが当たって、その子の得意なところでクラスのヒーローになったりすることもありました。例えば、教育委員会主催の ALT さんとの交流会についても、今でしたら小学校だったらこの子、中学校だったらこの子が参加するなというのを、もっといろいろな子が参加することで、高校にあがった時の不安がちょっと減るのではないかなと思います。穴喰の子どもさんがおとなしいという話もありましたが、そういうイベントに参加する子どもが穴喰からは少ないなという印象を私も穴喰で子育てをしていて思っていました。そういうところに積極的に参加できる子どもを決めてしまうのではなく、いろいろな子を行かせてあげるようにして、高校にあがる不安とか、クラス替えはないけれど、違う人と接するという機会を増やしてあげたらいいのではないかなと、中学校時代に思っていました。

(村田委員)

小学校 2 校・中学校 2 校体制については、すべての地区が「そう思う」となっていますが、小学校は今 3 校です。これを 2 校にするとしたら、海南と海部が一緒になるイメージなのではないでしょうか。海部と穴喰が一緒になるというイメージはないのでしょうか。中学校区の関係で、こういうイメージはないのかなとも思いますが。

(登井委員長)

角田委員、いかがでしょうか。もう完全に、海部小と海南小が一緒になるというイメージが強いのでしょうか。

(角田委員)

海南小と海部小、海南小と穴喰小、海部小と穴喰小の 3 つの選択肢がありますよね。

(三浦教育長)

アンケート結果をみると、宍喰の皆さんは統合・再編に否定的な一方で、2校2校体制は肯定的ということで、宍喰の方は海南と海部が一緒になるという認識をもっているのかなと受け取れます。あとはわかりませんが。

(小山委員)

アンケートが下の子にくるということで、保育所にもたくさんアンケートがきました。保護者の方はみんな、海部と海南が一緒になって宍喰は別という考えでした。保護者の人は、完璧にそういうイメージです。

(登井委員長)

谷本委員もそのようなお考えですか。

(谷本委員)

そうですね。少人数校がなくなってしまうという不安があります。もう実際に、なくなってしまうたらどうしようと寂しい思いがあります。

(登井委員長)

現実的に考えると、直線距離も非常に近いということや、中学校も海部中と海南中が一緒になって海陽中学校ができたということも含めて、これは私の推測ですが、海南小と海部小が一緒になると捉えた方が多かったのかなと思います。

(角田委員)

本当にいろいろな意見があると思いますが、先生や教育委員会の方が学校の場所を考えてつくってくれますが、実際やるのは子どもであって、子どもの世界がどうしてもあって、子どもたちの世界にはなかなか親や先生は入っていきません。意外と子どもたちは、そこをすんなりとクリアしていくのではないのでしょうか。人数やクラスが多かれ、少なかれ、そこに対応できる子もいれば、もちろん対応できない子もいるのはどの環境にいても同じだと思います。今やろうとしていることは、しっかりとした環境をきちんと整えたうえで学校体制を考えていかないと駄目なのかなと思います。子どもたちの力といいますか、可能性はすごく無限大であって、引っ込み思案の子もいるでしょうし、先ほどおっしゃったように急にどこかで環境が変わったことで友だちがたくさん増える子もいるかもしれません。少ない人数であっても同じであって、少ないからこそ、仲良くしておかないと大変なことになります。非常に難しい問題ですが、全部の意見をまとめるのは無理でしょうが、やるからには最低限のレベルまでもっていけるように問題を解決しないといけないと思います。今はまだ、2年、3年先のところは今の状態で全然いけるのかなと思います。そのゆくゆくの、この何

年かの間話を進めていくべきなのかなと思います。

(登井委員長)

現状維持があってもいいし、2校2校や1校1校、2校1校などいろいろな意見がありますが、やる時にはきちっと環境を整えて、子どもたちが本当に過ごしやすく、先生たちも教育のしやすい環境がどうであるかといったことを考えてすべきだということをご意見いただきました。

(三浦委員)

去年の暮れに、DMVの試運転で、婦人会として一般や子どもさんと一緒にDMVに乗りました。私は、海部小の1・2年生の児童さんと一緒に乗ったのですが、もう素晴らしかったです。一人ひとりが活き活きとしていて、先生も立派で、もう感心しました。今考えたら、少人数だからこそでできる田舎ならではのいい環境で教育をしてもらっているの、小さいうちはこれでいいのかなとつくづく思いました。お孫さんが都会のマンモス校に行っている方は、なかなか田舎でなければこんなことはないと言っています。できるならば、そのままいって欲しいなと思います。

(登井委員長)

実際に地域の方が小学生や先生方とふれあう機会があって、少人数ならではのといったご感想をいただきました。できれば現状維持でという話もありますが、その辺りをもう少しご意見いただけるとありがたいです。中学校も2校あるのを1校にするのか、現状維持でいくのか。また、小学校は3校あるのを現状維持でいくのか、それとも2校にするのか。1校1校は、データから考えるとものすごく厳しいものがあるのかなというのが読み取れます。皆さん、ご意見をお願いします。

(谷口委員)

以前の資料で記憶にないのですが、そもそも維持していく場合、校舎のメンテナンスなど全てにお金がかかってくるんですね。その経費を少しでもという観点ではないのですか。校舎を使わないにしても、生徒がいなくても、避難所として使うので、そういうメンテナンスにはお金はかけていくのでしょうか。

(事務局・森崎教育次長)

後でも出てくるかと思いますが、施設の適正化ということで、いろいろ行財政の改革プランのお金の話があるのも事実です。でも今は、本当に教育部門で必要なところで本当に子どものために有用な最優先のところを押さえてお話しいただければと思います。町の施設は学校だけではありませんで、当然いろいろな施設のこれからのあり方について今協議がな

されているところです。ですので、もし再編や統合になったとしても、その後の学校施設の有効活用というのは考えられます。老朽化している施設をこれからどうするのかというのも一つの話にはなろうかと思っておりますので、そういうあたりも含めて話は進めていくと思います。

(登井委員長)

すでに、次の議題2「学校のあり方の基本方針の検討」についても話が進んでいます。例えば、さきほどの谷口委員の発言でしたら、学校施設の適正化の視点というところに入っていますので、議題2の骨子だけ事務局から説明をお願いします。

■議事2 海陽町学校のあり方の基本方針の検討

事務局・森崎教育次長から説明

(登井委員長)

学校の適正規模の基本的方針として、「教育的視点」と「地域連携の視点」「まちづくりの視点」「学校施設の適正化の視点」の4つの観点でまとめることになっていますが、これまで皆さんが出された意見が大体これにあてはまっていると思いますので、引き続きどんどん意見を言っていただけたらと思います。

(皆津委員)

教育的視点に学校数はいらぬのかなと思いました。今まさに学校数のことを言っていますので。

(事務局・森崎教育次長)

おっしゃる通りです。

(登井委員長)

スクールバスについてはどうなのでしょう。

(事務局・安孫子)

移動の安全性の確保などといった方向性だけでも出てくるのかなと考えています。

(三浦教育長)

統合で配慮して欲しいことの中にも上位に入っていますので、その辺りは盛り込む必要があるかと思っております。

(登井委員長)

先ほどから学校数について意見が出てきましたが、これら 4 つの視点から考えた場合はどうだろうかという意見も言っていたいただけるとありがたいです。

(辻委員)

中学校に求めることとして「放課後や週末等の子どもたちの活動拠点を提供する」とありますが、小学校でしたら放課後子ども教室とかいろいろありますが、中学校の場合はどのようなことを指すのでしょうか。

(事務局・森崎教育次長)

基本的には、運動部や文化部を含めた部活動でしょうか。それ以外に、例えば生涯学習などといった一般の方もいろいろ参加できるようなものであったり、ポップイングリッシュなどを通して違う学校の生徒さんと交流する機会づくりといったことも含めた居場所づくりと思っています。

(三浦教育長)

小学校では一番に居場所づくりが入っていますので、これは放課後子ども教室であったり、学童保育かなと思います。中学校の部活動につきましては、なかなか人数が少なく、合同チームでやっています。今、休日の地域移行ということが大きく出ていますので、その辺りもこの中に入っているのかなと想像しています。

(福田委員)

部活動関係の話ですが、昔でしたら野球やバレーやバスケとか、運動をガンガンやる部活動に子どもは集まってきていましたが、今は集まってこないです。例えば、海陽中であれば、ブラスバンド部があります。それに、書道であったり、英会話であったり、そのような文化部系統に子どもたちは流れています。厳しい運動を求めています。ですので、県大会などの試合に行っても、なかなか結果が難しいという状況になりつつあります。合同チームで一生懸命詰めたくても、やはり練習の回数が少ないので詰めることができません。だから結果が出ない。そのようなところを少しやきもきしながら指導しているのが現状です。その辺りをどうにか改善しないと、子どもたちの流れは、どんどん文化部系統に変わっていくのかなと少し危惧をする部分があります。穴喰であれば、人数は少ないですが、今一番頑張っているのは卓球です。伊丹委員さん含めて、卓球部が一生懸命熱心にされていますが、その卓球部自体も少し厳しめにすると子どもたちが集まってこないです。チームがつかれないということになります。ですので、保護者や子どもたちの考え方なのか、本当に熱心に指導される先生がいるにも関わらず、子どもたちの流れが少し変わってきているところがあります。家庭でゲームであるとか、オンラインであるとか、SNS 関係で、子どもたちはあまり活動

せずに過ごしているのかなと感じてしまいます。非常に残念な傾向にあります。もっとガンガン体力をつけて、いろいろな経験をした方がいいと思います。その辺りが少し心配かなと感じています。昔と比べて、しんどいことはあまりしません。その中で、宍喰では、隣の土地を利用してビオトープをつくって、子どもたちが働いて、そちらにエネルギーを注入することで、学校でこういうことをすると楽しいよとアナログ的な活動を割と実践しています。デジタルの活動もあればアナログの活動もあって、これらをミックスしながら子どもたちを育てていかないと、全部デジタルへ移行すると、少し問題が発生するかなと思っています。

(登井委員長)

文化部へ生徒が流れていっているということですが、もしも海陽中と宍喰中が一緒になった場合でも結局同じ傾向が出てくるということですね。いつ頃からそういう流れになったのですか。

(福田委員)

2、3年前です。つい最近です。例えば海陽町であれば、この夏でバレー部がなくなります。野球をしている子も本当にいません。学校の中心にあった野球部やバレー部に生徒がいなくなっています。宍喰はかろうじてつながっていますが、そのような現状です。これが海部郡だけではなくありません。阿南市でも、今まで敵・味方だったところが、大きい学校でも合同チームをつくっている状況です。阿南中と阿南第一中がバレーであれば合同チームをつくっています。だから、そういうところと対戦することになります。ちょっとおかしいなという感じを受けています。

(谷本委員)

私は放課後とか学童などで小学生と関わっていますが、小学生のうちには割とスポーツをしたい子とか、活動熱心で一日中体を動かしたい子などがいますが、やはり中学校へ行って好きな部活動に入れないとか、一緒に競争したり部に入る友だちがいなかったということがあって、運動部に入るのはやめて文化系の部活動に入ることになるという子たちもいます。運動を一緒にする子があまりいないとか、共通の友だちが持てないというので、そういう面でも、この合併の話であったり、少人数校を残していくかということも、もう少し検討しないといけないと感じます。

(皆津委員)

感想として、小学校ではやはり子どもは学級担任とのつながりが大きくて、中学校へ行ったら部活動の関係が大きいということを感じています。それが今では運動部がなくなっているということで、私たちは運動部で覚えた厳しいつながりをすぐ連想しますが、文科系の部活動に移行しても生徒との関わりというのはやはり非常に大きいので、大事にして

ほしいなと思いました。

(登井委員長)

私は中学校の経験がないので知らないことばかりですが、つい最近そのような傾向にあることに驚きました。そのような視点も含めながら、どうしていくのかというところになっていくと思います。この話し合いは避けられないところですので、いろいろな部活動などの話をしながら、今後中学校はどうしていったらいいのか、その下の小学校はどうしたらいいのかというところを、もう少し皆さんの意見をいただけるとありがたいなと思います。もう回数も少なくなってくるので、どんどん意見を言ってまとめてもらうということでしょうか。

(谷本委員)

平成14年の答申案が出てから、東小学校と西小学校が実際に合併した年とか、この話し合いの後に海陽中学校が合併するまで、どのくらい期間があったとか聞いてもいいですか。

(三浦教育長)

海陽町の教育を考える会の平成18年12月の報告書は、これを受けて平成20年度に海陽町の小・中学校統合計画ができて、平成23年度に浅川小、川上小、海南小の3校が再編して、町内では小学校が3校になりました。中学校は海部中と海南中が再編して海陽中となって、町内では2校になったという流れです。

(登井委員長)

私は海部西小で9年間勤務がありますが、その頃は110~120人ほど児童がいましたが、最後海部西小で勤務が終わる頃には、70~90人ほどいたと思いますが、その後一気に児童が減ったらしいです。それで、統合に向けた話し合いが出されたのかなと思っています。

(三浦教育長)

平成14年の答申が出た後、平成16年4月1日に統合しています。これが出て1年おいてです。

(登井委員長)

私たちはすぐに統合しなさいとか、そのようなことは何も出さなくていいですし、こういう具合になってきたら統合を考えたらどうですかということでもいいと思います。そういうことをまとめて、意見として出してもいいのかなと思っています。

(谷本委員)

私は、海部には海部の良さがあって、宍喰には宍喰の良さがあって、海南には海南の良さ
があって、伝統や歴史などがまちづくりの視点からいうとすごく奥が深く、まだ知らない
ことがたくさんあるので、子どもたちに語り継いでいってほしいなと思いますが、実際学校
に通う子どもたちの現状からすると、友だちが少なくなっているとか、同じ気持ちで部活動
に臨めないとか、そういう面ではやはり通うのは子どもたちなので、私たちとはまた違う意
見があるのかなと思うので、今後も考えていかないといけないと思っています。

(谷口委員)

私も同じ意見です。海部は海部東と海部西の海部同士だったので、短期間でギュッと統合
できたようですが、現在の体制は、かなりの年数をかけて平成 23 年度に統合ということに
なったというのであれば、やはり今回は、もう今の時点で大体の方向性を考えておかないと、
このままでいいのではないかという形で進めるのはよくないのではないかと思います。も
ちろん出生率はわかりませんが、現在保育所とかの子どもさんが何人ぐらい小学校に上が
ってという数字は出ていたと思います。あと、2年ぐらい前に宍喰で弁論大会を聞いた時に、
こちらの学校に行けなかったので、こっちの学校へ行きたいということで、仲間ができて、
部活もできてという子どもさんを見て、すごく勇気があるなと感じました。いじめられてい
て、こっちに来たということを生徒の前で弁論されている姿はすごいなと思いました。やは
りそういう環境があって、こちらの学校が駄目でもこっちだったら頑張れたというような
ことがあるのであれば、やはり 1 校 1 校ではなくて、2 校 2 校でまずは進めていけるのが、
親御さんのアンケートでも先生方のフォローと通学の不安っていうのが一番多かったので、
地域のこと云々よりも、やはり保護者の視線もそうなので、その方向性で考えていくのが将
来いいのではないかと何回か参加させてもらって感じました。

(登井委員長)

現状維持もいいけれども、やはり先に進めて 2 校 2 校というのを早めに提示してあげる
のがいいのではないかというご意見でした。

(辻委員)

まちづくりの防災のことですが、海部地区では、海部中が海陽中になって、中学校の校舎
が空いている状況です。そこで今度、もし 2 校・2 校になって、海部小が宍喰へ行くか海南
へ行くかわかりませんが、なくなれば、2 つとも学校の施設が閉鎖になります。そうすると、
海部の人々が避難場所として学校に逃げたいということになると、鍵がかかっている場合は
どうしたらいいのでしょうか。海部地区の防災拠点はどうなるのでしょうか。

(登井委員長)

実際、海部地区に住まわれています三浦教育長にご意見をいただきたいと思います。

(三浦教育長)

海部小学校は、地震津波の一次避難の場所にはなっていないで、二次避難の場所になっています。ですので、学校で避難することはありません。二次避難の時は、鍵を開けて入っていただくことになります。

(登井委員長)

他に何かございませんか。次回にまた話を持ち越して、皆さんに考えていただきたいと思っています。次回もこの資料をもとに、今日話し合ったことをまとめていただいて、そして先ほどから出ている学校数を一番に持って行って、そしてこの4つの視点をどうクリアしていくのかということ話し合っていければと思っています。

(三浦教育長)

海部東・西小の答申は、統合すべきから始まって校名なども含まれています。このあり方検討委員会では、先ほど次長から説明があったように、そこまでは踏み込まないという形になっています。ただ、平成20年度に小・中学校の統合計画、平成23年度に今現在の状況になりまして10年あまり経っています。3町が合併した時は、小・中合わせて957名の児童生徒がいましたが、今年度は417名、もう半分以下で、あと5年後の令和9年になると334名と3分の1になってしまいます。こういう状況の中で、この海陽町の教育のあり方をどうすべきか、もちろん一番最初に説明をさせていただいたように、数だけでもの言うわけでもなく、再編統合を前提にした話でもありません。ただ、現状維持である場合は、いろいろな子どもたちの教育環境をどのように担保していくのか。アンケートの中にも、やはり一番心配なのは教員の確保であるとか、そういう意見もあります。すべてが複式学級になってしまうと、もう教員確保は全くできない状況になります。そのようなことも踏まえながら、現在の数で残すのであれば、どのように捉えていくかという辺りも、またいろいろな意見を出していただければ非常にありがたいと思います。来年度の答申を受けて、教育委員会もまた新たに方針を策定してまいります。先ほど角田委員もおっしゃっていましたように、まずは本当に子どもが第一ですので、子ども第一の視点でやはり考えていただきたいと思いますので、またどうぞよろしくをお願いします。

■議事3 その他

(登井委員長)

それでは、次回のことも含めて事務局にお返ししたいと思います。

(事務局・森崎教育次長)

それでは、今後のスケジュールについてご説明をいたします。次回の委員会は12月に予

定をしています。案内につきましては、またご連絡をさせていただきますので、よろしくお願ひします。なお、今後の委員会の議題ですが、次回12月は本日話し合っていたいただきました4つの視点について、またご意見がいろいろ出てくる可能性もございますので、その辺りも含めまして、方針の確認をしていきたいと考えています。そして、年明けの2月には基本方針をまとめた答申案についてご協議いただきまして、3月には内容をとりまとめた学校のあり方の基本方針の最終案を確認していくというような方向で考えています。なお、先ほど谷口委員から現在の出生のことも含めてという話があったかと思いますが、5歳児から今の0歳児までの段階で、出生数が38人というようなことでございます。今のところ、令和5年もおよそ30人ぐらいで、大体それまでの間は、32とか34とか30人前半台で、ずっと推移をしていくという状況です。

それでは、以上をもちまして本日の協議を終了させていただきたいと思ひます。ご協力どうもありがとうございました。

閉会